



ENTRPPENIUSHIP

12月22日(日)
10:00～12:00
CO-DEJIMA

高校生アントレプレナーシップゼミ 2024 Winter

参加校：長崎東高等学校・佐世保南高等学校
諫早高等学校・西陵高等学校
松浦高等学校・五島南高等学校
口加高等学校・佐世保商業高等学校
島原商業高等学校

主催：長崎県教育庁高校教育課

目次

- 1 「高校生アントレプレナーシップゼミ 2024 WINTER」最終発表会プログラム・・・ (1)
- 2 「高校生アントレプレナーシップゼミ」について・・・・・・・・・・・・・・・・ (2)
- 3 審査基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (3)
- 4 審査員のご紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (4・5・6)

「高校生アントレプレナーシップゼミ 2024 Winter」プログラム

1 受付開始 9:30～10:00

2 開会式 10:00～10:05

主催者挨拶：長崎県教育委員会 教育長 前川 謙介

3 プレゼンテーション 10:05～11:28

1. コンテスト概要・審査要項 説明
2. プレゼンテーション

時間	学校名 (参加者)	チーム名 (代表者)	プラン名
1 10:10～10:23	西陵 (田中)	TLC 田中 由梨奈	御朱印帳を活用した新たなサービス
2 10:23～10:36	佐世保南(五反田)・西陵(金子) 口加(石橋真)・島原商業(菊池)	うえる×サボ島原 石橋 真那斗	高齢者をサポート ～オンラインお墓参り～
3 10:36～10:49	佐世保南(岡)・島原商業(松田)	OWNER 岡 美帆	新たなオーナー制度による地域産品の販売
4 10:49～11:02	諫早(城間)・五島南(馬場) 口加(末松)・島原商業 (辰田)	VITIM 城間 絢媛	端材総合商社！
5 11:02～11:15	長崎東 (中村)	Zeer.net 中村 峰康	高校生による不登校支援！
6 11:15～11:28	松浦 (石橋大) 佐世保商業 (山崎)	Scarcity 山崎 未羽	新たなインターンシップの提案

4 審査・休憩 11:30～11:40

5 表彰式 11:40～12:00

1. 表彰：最優秀賞 優秀賞
2. 講評 ADMIN LLC DAO 代表社員 山口知宏
3. 閉会
4. 集合写真撮影

※審査員、観覧の方はご退室

「高校生アントレプレナーシップゼミ 2024 Winter」

1 高校生アントレプレナーシップゼミとは？

長崎県内の県立高等学校から希望する高校生を募り、長崎県教育庁高校教育課や外部講師による集合研修などを大学のゼミ形式で実施しています。

参加者は一人一台パソコンを活用しながら、地域課題の解決や地域の魅力化等に取り組むことで、郷土愛にあふれた地方創生人財の育成や、地域課題解決や地域魅力化のための活動を高校生自ら計画し実行することで、起業家精神を持つ人財を育成することを目的としています。

2 教育プログラムについて

「高校生アントレプレナーシップゼミ 2024 Winter」に参加する 15 名の生徒を対象に教育プログラムを実施しました。

10月18日から参加者一人ひとりと「1on1 ミーティング」を実施のうえ、10月26日～12月21日まで教育プログラムを実施しました。

また、生徒はビジネスプラン構想にあたって、チームメイトなどとメタバース上で複数回のミーティングを実施しました。

3 本日の最終発表

生徒 14 名は、1～4 名の 6 チームに分かれ、本日 6 プランを発表します。

今後、6 チームについては、「東彼杵ビジネスプランコンテスト」などのビジネスプランコンテストにエントリーする予定です。

4 審査基準 ※次頁参照

以下の 3 項目(1)～(3)を 5 段階評価し採点を行います。

審査項目：(1)「新規性、革新性、優位性」(2)「実現可能性、市場性」(3)「表現力」

5 表彰について

本日は最優秀賞 1 チーム、優秀賞 5 チームを選出します

審査基準

本日のビジネスプランの選考にあたっては、以下の要領で行うものとする。

評点は、採点表に各審査委員がビジネスプランごとに採点記入する。評価項目は以下 3 項目とし、簡便化のため 5 段階評価をする（5 点、4 点、3 点、2 点、1 点）。

1 評価項目

- (1)新規性・革新性・優位性 : 事業アイデア・コンセプト自体の新規性・革新性・優位性。
- (2)実現可能性・市場性 : ビジネスプランの事業化への可能性、市場性。
- (3)表現力 : 書類、プレゼンでの表現力、説得力。事業化するにあたっての考え方。

2 評価基準

評点の目安としては、各項目 3 点を標準とし、非常に優れているものを 5 点、優れているものを 4 点、いま一步を 2 点、最も低い評価を 1 点とする。いずれも採点表のとおり評価基準を設けるが、あくまでも目安で、各審査委員の経験及び他の案件との相対的な評価から出た判断で差し支えないものとする。

3 選定

評価項目	採点	評価基準（あくまでも目安を例示したもの）
1. 新規性・革新性・優位性	点	5 事業アイデア等の新規性、優位性も大変高い。
		4 事業アイデア等の新規性、優位性も高い。
		3 事業アイデア等の新規性、優位性も普通である。
		2 事業アイデア等の新規性、優位性も普通よりやや劣る。
		1 事業アイデア等の新規性、優位性がなく劣る。
2. 実現可能性・市場性	点	5 近々（2 年以内）、事業化が可能であり、市場性も大変大きい。
		4 5 年後には事業化できる可能性があり、市場性も大きい。
		3 計画が具体的に煮詰まっているが、起業には今一步で、市場性も普通である。
		2 計画が具体的に策定できておらず、市場性が見極めが普通より甘い。
		1 単なるアイデアであり、市場性もない。
3. 表現力	点	5 表現力、説得力が十分にあり、起業家としての意識も大変高い。
		4 表現力、説得力があり、起業家としての意識も高い。
		3 表現力、説得力、起業家としての意識は普通である。
		2 表現力、説得力、起業家としての意識は普通よりやや劣る。
		1 表現力、説得力、起業家としての意識は低い。

審査委員のご紹介



①審査委員

長崎県教育委員会

教育長 前川 謙介

H26 まちづくり推進室長

H29 政策企画課長

H30 五島振興局長

H31 企画委振興部政策監

R 2 文化観光国際部政策監

R 4 文化観光国際部長

R 6 長崎県教育委員会教育長（現任）

②審査委員

活水女子大学

講師 花堂 奈緒子

ソニーセミコンダクタ九州（現：ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング）にて半導体デバイス開発に従事後、長崎大学経済学部で社会人学生として学びながら、長崎大学職員や九州工業大学アドミッションオフィス准教授（専門職）などを経て2023年4月より現職。今までやっていないことを想像・妄想してカタチにするプロセスを考えるのが大好きで、九州工業大学時代は探究型入試の導入やコロナ禍でのオンライン入試の実施などを担当。昔の専門は電子工学、現在の専門は経済学。



③審査委員

ADMIN LLC DAO

代表社員 山口 知宏

20歳の時サラ金から調達した資金でIT会社アドミンを起業。地域に根付き民間・行政の各団体のDXを支援。2020年全国に先駆け、メタバースへの本社移転、完全ペーパーレス・キャッシュレス、RPA・AI等を基とした「サイバー企業」へと事業転換。2023年よりWeb3.0・メタバースに特化したスタートアップ企業として舵を切り、DAOの先駆企業として株式会社からLLC DAOへと組織改編を実施。世界初の事例となる。

<その他役職>

オープンイノベーションのプラットフォーム「ルートヴィレッジ」村長

一般社団法人長崎青年会議所第71代理事長（歴代最年少）

一般社団法人長崎県情報産業協会理事（歴代最年少）

長崎市DX推進委員会（長崎市民代表）

④審査委員

株式会社サイノウ

CO-DEJIMA コミュニティマネージャー

波止 紗英

1997年福岡県生まれ。西南学院大学出身。大学在学中にスタートアップ企業の取締役としてキャリアをスタート。

現在は、重要文化財にある cafe&bar saino の運営や長崎でスタートアップ支援などマルチに従事。

明星和楽実行委員。



⑤審査委員

株式会社フィールドワーカーズ

代表取締役 星 友矩

長崎大学熱帯医学研究所 助教

2012年長崎大学大学院国際健康開発研究科修了、2016年同大学院医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学専攻博士課程修了。同年長崎大学博士（医学）。2017年より同大学熱帯医研究所助教。2018年ロンドン大学衛生熱帯医学校リサーチフェロー、2021年WHO コロナ対策コンサルタントを経験。感染症対策には研究費以上の資金力が必要だと実感。そこで最先端技術を社会実装する企業「フィールドワーカーズ」を創業。研究者でありながらも起業家としても精力的に活動中！

⑥審査委員

十八親和銀行

主任調査役 山下 淳司

長崎大学大学院工学研究科 非常勤講師

公益財団法人 ながさき地域政策研究所 理事

独立行政法人 中小企業基盤整備機構 スタートアップアドバイザー

R元 長崎大学 FFGアントレプレナーシップセンター センター長・教授

R3 十八親和銀行地域振興部 スタートアップ支援・新事業創出支援





⑦審査委員

一般社団法人 壱岐みらい創りサイト

地域おこし研究員 森下 祐樹

2009年ベネッセコーポレーションに入社し、福岡県・熊本県の高校担当、東京本部海外留学支援サービスの事業推進に従事。同社を退職後、ミャンマーで民間企業勤務、JICA バングラデシュ事務所の技術協カプロジェクトに従事。現地 IT 技術者向けの日本就職支援プログラムを立ち上げ、宮崎市をモデル地域とする「宮崎-バングラデシュモデル」を推進。

2021年慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科修士課程入学と同時に、長崎県壱岐市に移住し、「壱岐なみらい研究所」の研究員に就任。高校地域連携コーディネーターとして、学校内外の探究学習プログラムの企画に関わる。

⑧審査委員

西海みずき信用組合

副室長 西信 好真

一般社団法人 共感結社モルタル 理事

愛媛県出身。(株)東北新社でドキュメンタリー、ドラマなどの映像コンテンツ制作に従事。その後、長野県に移住しコワーキングスペースに所属、イベントやツアーの企画運営を通し地域振興に関わるようになる。5年前からは、佐世保に移住。金融機関に所属しながら、大学生のキャリア支援や高校の探究支援活動など若者支援を軸に地域課題解に向き合う。2022年度からは国内最大規模の探究学習の発表大会「マイプロジェクト」の長崎大会を主催している。

